

研究者：藤原 正樹（所属：東京医科歯科大学歯学部歯学科3年）

研究題目：タイ歯科研修プログラム

目的：

以下の活動を通して、国際理解力を向上させ、将来グローバルな課題に対応できる歯科医療人・国際研究者となることを目指す。

- ・ 歯科関連施設の見学を通してタイの歯科保健システムや歯科保健状況を理解する。
- ・ 大学付属病院の見学を通してタイの歯科教育について理解する。
- ・ タイの歯学部学生や教員との共同作業・交流を通して、英語によるコミュニケーション能力を向上させる。
- ・ タイの歴史、文化、習慣、言語などを理解し、異文化理解を深める。

対象および方法

対象：歯学科3年生9名

期間：2017年8月25日～9月2日

場所：タイ（バンコク）、シーナカリンウィロート大学歯学部・歯学部附属病院

活動内容：

1. 大学内の資料館見学、前国王弔問者芳名録への記帳



シーナカリンウィロート大学の学内に存在する学内資料館で大学の歴史を学んだ。大学のロゴに発展の願いが込められていることや、元々は教育大学としてスタートしたシーナカリンウィロート大学の歴史など、愛校心と王室との繋がりについて学んだ。

また、昨年10月に崩御された前国王への弔問者芳名録に記名し、タイ王室への敬愛の念を示した。タイという国の政治決定の速さと各種システムの整備の速さは王室への敬意が大きな理由の一つになっているのだろうと感じた。

2. タイの歯学教育システム及び公衆衛生に関する特別講義の受講

シーナカリンウィロート大学歯学部のNathawut Kaewsutha先生によるタイの歯科教育システム及び公衆衛生に関する特別講義を受講した。タイの歯科教育システムは概ね日本のそれと同じであるが、国家試験の形式が違うことや学生の意識が非常に高いことに驚いた。



3. 歯学部4.5年生の英語クラスに参加

英語のクラスに参加し、日本の学生生活についてのプレゼンテーションと質疑応答を英語で行った。また、日本の社会保障制度とタイの社会保障制度の違いなどにも触れた。活発な質疑応答を行い、タイの学生の意識の高さに触れることができた。



4. 歯学部3年生の口腔生物学の実習に参加

カルシウムの溶解性についての実験に参加した。タイで使用されているピペットが日本で使っているものと違い、手間取ったがタイの学生の優しさに助けられて無事実験を終えることが出来た。タイの学生が日本を大変裕福な国だと認識していたことに衝撃を受けた。



5. 歯学部附属病院、アソートモントリ病院見学

シーナカリンウィロート大学歯学部の先端医療施設であるアソートモントリ病院を見学した。全額自費負担の私費病院であり、その診療内容は日本と変わらぬレベルの病院であった。治療費は日本の水準と変わりなく、タイの経済発展を感じた。





6. 小児歯科&予防歯科分野見学

こちらの分野では主に研究室を見学させて頂き、ミーティングスペースと学生が毎年制作する自主制作本を見せて頂いた。



7. 歯科保存学&補綴学分野見学

シーナカリンウィロート大学の学生が診療を行うエリアとなっている歯科保存学&補綴学分野の診療室を見せて頂いた。D6の学生による親知らずの抜歯をリアルタイムで見せて頂いたが、大変鮮やかな手つきで10分弱で抜いており、高い技術水準を感じた。





8. 口腔外科&口腔治療学分野見学

最初に大学病院に通う患者がどのような手続きを取り、診療の方法を選ぶ流れを見学した。①全額自費でスピーディな治療を受けることができる ②ある程度安くそこそこ時間がかかる ③時間はかかるが無料で治療を受けることができる。という3タイプの診療エリアを選ぶことができるというシステムが効率良く感じられた。



9. シーナカリンウィロート大学歯学部“Teachers day”に参加

タイで毎年行われている教員に常日頃からの感謝を伝えるイベントである Teachers day セレモニーに出席した。自分たちは来賓として対応していただき、先生方の後ろの席で見学させて頂いたが、タイの仏式作法などを間近に見る貴重な機会となった。日本では謝恩会などが同様の意味を持つイベントとして存在するが、あまり教員に感謝を伝える場所がないので新鮮であった。日本では各個人がそれぞれの先生に感謝を伝えるタイミングはあるが、こういった日は設けられおらず、自分たちも教員への感謝を忘れてはいけないと再認識した。



10. タイ王国健康推進財団本部訪問

最終日にタイ王国健康推進財団本部を訪問した。最新の建築手法により作られた先進的な建物の中にオフィス、カフェテリア、来場者用の体験エリアが開設されていた。タイではタバコと酒に重い税がかかっているが、将来的にはタバコも酒も禁止していく流れがあるそうだ。日本を含む他国ではタバコ、酒を製造している業者から不満が出るような内容だが、タイでは積極的に他業種への転換を提言することで不満が出ないようにしているという説明を受けた。



感想

約1週間という短い期間であったが、多種多様な経験ができた。日本という枠組みの中だけでなく、他国からも学び、他国へも伝えていくことが非常に重要だと感じた。自国の常識は絶対的なものではなく、様々な考え方に基いて行動している人がいるということを再認識する良い機会となった。

出発前に東京医科歯科大学の英語コースで学んだ歯学英语を活用する機会が多く、現地学生とは英語で積極的に交流することができた。日本と同じく現地の学生の英語レベルは幅広く、日本で学習していった教養英語や専門の英語を最大限活用することができた。

また、シーナカリンウィロート大学はバンコクの中でも都市開発が進んで発展しているエリアにあったが、土日の観光で水上マーケットなど古いバンコクの町並みを訪れる機会があり、同じ都市の違う地域における発展の差の大きさを感じた。引率してくれたタイの学生がしきりに「まだ発展していないエリアの公衆衛生を考えていくことが今後の課題だ。」と言っていたのが印象に残った。

成果発表：（予定を含めて口頭発表、学術雑誌など）

歯学部学生を対象にタイ研修の成果発表を行う予定である。